

## 6. 底質の粒度組成および底生生物調査

今年度は図5に示した浅部の7地点で調査した。



図5 底質および水質調査地点

### (1) 粒度組成

1983年8月29日に川平湾浅部の7地点で採泥をおこない底質の粒度組成を調べた。採泥には口径7cmのガラス瓶を使用し、採集した標本はピーカーに移して一夜放置して上澄液をすてその後80℃で24時間乾燥してさらに110℃で4時間乾燥してから全量を秤量した。その後水洗しながらふるいにかけ、110℃で4時間乾燥して各粒度部分をそれぞれ秤量した。測定に供した標本はst.1が489.0, st.2が652.3, st.3が522.2, st.4が474.0, st.5が729.7, st.6が535.7およびst.7が474.9gであった。

結果は表8と図6に示すとおりである。過去の資料とほぼ類似して、湾奥から湾口にかけて粒径が大きくなる傾向がみられた。すなわち、中央粒径値はst.1, 2, および4で中粒砂(250~500 $\mu$ )、st.3と6で粗粒砂(500~1,000 $\mu$ )、st.5と7で極粗粒砂(1,000~2,000 $\mu$ )であった。

また、塩酸処理の結果も前年度までと類似して、st.2, 4を除き湾口に近づく程低い残留率がみられた。st.2と4では河川からの陸土流入の影響が考えられる。



図6 中央粒径値と残留率の関係

表8 川平湾底質の粒度組成

昭和47年調査による川平湾底質の調査結果

調査地点 (st.)	粒径 ( $\mu$ )	1000	500	250	125	63	63 >	HCl 処理後残 留率(%)
		>2,000 ↓ 2,000	↓ 1,000	↓ 500	↓ 250	↓ 125	↓ 63	
1	5.4	12.9	26.2	34.6	14.5	2.4	4.0	38.6
		18.2	44.4	79.0	93.5	96.0	100.0	
2	4.7	8.0	13.9	34.8	30.7	3.6	4.3	51.0
		12.7	26.6	61.4	92.1	95.7	100.0	
3	14.9	22.1	23.1	23.4	11.9	1.8	2.9	23.6
		37.0	60.1	83.5	95.3	97.1	100.0	
4	1.6	11.8	28.7	34.0	17.3	2.1	4.5	61.6
		13.4	42.1	76.1	93.4	95.5	100.0	
5	46.0	15.9	16.2	14.9	4.5	0.3	2.2	3.8
		62.0	78.1	93.0	97.5	97.8	100.0	
6	14.8	16.8	18.6	25.6	16.6	2.1	5.5	2.4
		31.5	50.2	75.8	92.4	94.5	100.0	
7	26.6	27.4	25.9	14.8	3.5	0.9	0.9	0.9
		53.9	79.9	94.6	98.1	99.1	100.0	

上段：重量比(%)、下段：積算重量比(%)

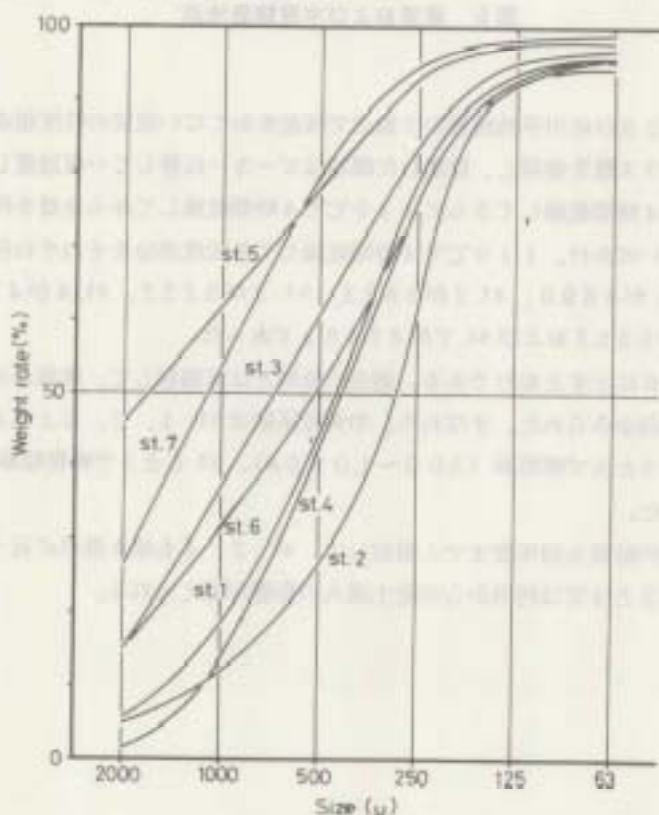


図6 川平湾底質の粒度組成